



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

フクシマと絆を結ぶ第11回沖縄平和ライブ

毎年3・11にあわせて、脱原発・平和・人権をテーマにした、「フクシマと絆を結ぶ沖縄平和ライブ」を3月11日那覇市にあるライブハウスで行いました。

出演は、「m&m」「嘉数正光」「石川勲」「よしもとけんじ」「沖音協」「After 5」の6グループでした。

沖音協としては、「風車の歌」「あたりまえの地球」「ジュゴンの住む海」「歌を歌おう」の4曲を歌いました。貸切ではなかったのですが、お店のお客さんの感想で、とてもいい曲だと言っていた。うれしく感じました。

(平良昌史)



さようなら原発 3.5 富山集会

「原発事故から11年…福島を忘れない! さようなら原発3.5 富山集会」が、3月5日(土)富山市の「ポルファートとやま」において開催された。主催は県平和運動センターなど原発再稼働に反対する市民団体で構成する実行委員会で170人が参加した。

開会に先立ち日音協県支部が、「フクシマを忘れるな」「原発 NO!」など反原発の歌を歌って紹介した。

(富山・磯野友一)

連合那覇南部地協「春闘団結集会」で演奏

3月12日は連合那覇南部地協主催の「春闘団結集会」の集会前アトラクションで、沖音協は「連合歌」「グッバイ オーバーワーク」「うた」「オンザロード」の4曲を歌いました。

コロナ禍で春闘期の集会も少なくなる中、連合と連携した取り組みができ次につながる事が出来ました。

(平良昌史)



日音協のインターネット音楽会 2022 より



ひまわりの種を 作詩=守谷明宏 作曲=Katsumi



風に吹かれて



演奏・歌=笠木博逸+旭川音楽協議会

たかが歌されど歌⑤ 松本敏之

音楽祭の思い出を

語るほどの歳じゃない

松本敏之

学生のころから、「インターナショナル」や「憎しみのつぼ」そして「地底のうた」も知っていた。音楽は前からやっていたし、たまたまこういう歌を覚えてくれる人もいた。ただ、労働者音楽運動は知らなかったし、したがって、これらの歌を知っているといっても、楽譜の上だけのことだ。労働組合に入って、労働組合の集会など（日音協的に言えば、「組合現場」）でギターを弾いたり歌ったりもするようになった。全国青年団結集会や平和友好祭中央祭典に行きつて構成詩を見た。全国レベルはすごいものだと思う。はたらくものの音楽祭に参加したのはそれからまだしばらくたってからのことだ。正直言って、あまり大したことはないと思った。音楽祭ですごくと思うのは、インターナショナルの大合唱、それも必ず四部合唱になる。あと忘

れられないのは芳地隆介さんの「国境は見えなかった」。

三月二〇日から日音協セミナーがあった。アレنجシ中心で音楽漬けになったのだからそれはそれで楽しかった。しかし、これでいいのかな、ちょっと違いはしないかという気持ちもある。音楽祭に何回か続けて参加していると、演奏技術は間違いなく向上している。作られる音楽（メロディー）もアレنجシも幼稚にせよ進歩していると思う。そのかわりインパクトがなくなっているのではないか。僕らはこんなものを求めていたのかなと思ってしまう。

原因の最大のもは、労働運動全体が低迷している。職場の労働者が何を主張して良いのかわからなくなっている。迷っているということだろう。職場で声に出して言えないことを歌にうたえと言っても無理があるだろう。だから「詩がつまらない」と言われてしまう。ただ、こればかりは労働者全体の気分が変わってこないと難しい。もちろん日音協もその一翼を担って

いるという自覚はあるつもりだが、しかし、主として日音協の責任ですかと問われれば、それはどうか。そこで、少し焦点から逃げるかも知れないが、私は合唱をもう一度大事にしようじゃないかと言いたい。自治労の音楽祭での発表は「仲間の歌メドレー」（九〇年）以来、ずっと合唱にこだわってきた。

自治労は、青年部女性部が若い組合員に呼びかけているという組合機関の取り組みのおかげで、ほかの産別に比べれば多くの若い音楽愛好者が音楽運動にかかわってきてくれる。若い人たちの感性にはいつも感心させられるし、私たち年寄り（私も三七歳になった）もおちおちしておられないという気分になる。自治労仲間の歌に応募するうたも、ニューミュージックと言うよりもJポップ、Jロックという感じになってきている。送ってくるテープも、それはDTMだったりするのは寂しいが、立派なものだ。そういう若い仲間たちと自治労または自治労音楽協議会がどういう音楽をつくっていくのだろうか。若い仲間たちの音楽は、無条件に認める、認め合う。お互いにまなび合う。それは当然のこととして

も、同じ足場に立って共有する音楽という意味では、自治労音楽協は、音楽劇（ミュージカル）と言いたいところだが、ちょっとそう呼ぶのは気がひける。私は普通うた入り芝居と呼んでいる」と合唱にこだわっている。仲間の歌の入選曲、佳作曲ともに書いたような事情で普通の意味で合唱

向きのうたではない。それでも、なんとかアレنجシ（原則混成4部）してうたってもらって、お世辞にも良かったと言ってもらえると、うれしい。この若い人たちと一緒に自治労の音楽運動をつくっていく、そのことが私の音楽祭運動であり、日音協運動かなと思う。

【4.16 さようなら原発首都圏集会（開催要項・要旨）】

- 1 と き 2022年4月16日（土）
13：00 音楽、13：30 開会、14：45 デモ出発
- 2 ところ 亀戸中央公園（東京都江東区亀戸9丁目27-28）
東武亀戸線亀戸水神駅徒歩2分、JR総武線亀戸駅徒歩15分
- 3 内 容
13：00 音楽 ニシカワ meets フォーク
13：30 開会
主催者あいさつ 鎌田慧さん（ルポライター・呼びかけ人）／フクシマから 福島原発刑事告訴裁判について トリチウム汚染水海洋放出について／六ヶ所再処理工場について／東海第二原発運転差止裁判について／気候危機と脱原発について
14：30 終了 14：45 デモ行進 会場→JR錦糸町駅方面
- 4 報 告（集会に参加される会員、音楽仲間は、4月15日（木）までに日音協にご報告お願いいたします。報告しなければ参加できないという趣旨ではなく、日音協会員・音楽仲間同士で連携を取りたい、可能であれば日音協の幟旗の掲出をお願いしたい、という趣旨です。）
- 5 その他
(1) 3月4日に配布された資料に記載がありませんが、当日はロシアのウクライナの軍事侵攻に反対し、原発・原子力施設への攻撃中止を訴える内容のアピール等があるものと思います。
(2) 日音協幹事会が参加できないため、うた・演奏を組織することができません。自主的に楽器を持ち寄り、うたうことは大歓迎です。

復帰50周年 日音協沖縄行動に参加しよう

日音協の沖縄行動・開催要項

1、日程

5月13日(金)15時(那覇市那覇文化芸術劇場なはーと大劇場)から15日(日)14時目途の反省会(那覇市内)終了までを基本とします。部分参加もお受けします。

次に示す日程は、今後の沖縄平和運動センター等との調整により変更になる可能性があります。

- 5月13日(金)15:00 全国結団式(那覇文化芸術劇場なはーと)／送り出し演奏練習(那覇市内)／懇親会(那覇市内)
- 5月14日(土) 8:30 出発式(宜野湾市民会館前広場：送り出し演奏)／平和行進参加(沖縄市：八重島公園まで)
- 14:00 舞台演奏練習(那覇市内)
- 19:00 ミニコンサート形式の全体交流会(那覇市内)
- 5月15日(日) 9:00 県民大会準備
- 10:30 復帰50年第45回平和とくらしを守る県民大会(那覇文化芸術劇場なはーと)
- 12:15 沖音協・日音協合同反省会(那覇市内)
- 17:00 オプション：懇親会

2、集合場所

5月13日(金)15時の集合場所は、那覇文化芸術劇場なはーと大劇場(沖縄県那覇市久茂地3丁目26-27：5・15沖縄平和行進全国結団式の会場)とし、中途から参加する場合の合流場所は個別に協議・お示しします。

3、宿泊

5月13日、14日とも宿泊は那覇市内で各自手配とします。なお、事務局の宿泊はホテルオロックス(沖縄県那覇市小禄1丁目1-1)です。

4、費用負担

自宅から沖縄までの移動費用と宿泊費のほかに、沖縄行動共通経費としておひとり2,000円の負担をお願いいたします。日音協は、県内移動のためのレンタカー代等の一部を負担します。

5、参加申込

第1次締切4月14日(木)、最終締切4月21日(木)までに、別紙様式により、日音協あてファックスかインターネットメールで、お申し込みください。

6、その他

- (1) 各支部1人以上の派遣をぜひ積極的にご検討ください。
- (2) 楽器等の持ち込み大歓迎です。事前にご連絡下さい。
- (3) 演奏曲目は、この間歌ってきた曲を参考に、みなさんからの推薦もいただきながら今後確定して、参加者にご連絡します。
- (4) 飛行機チケットと宿泊のパッケージを利用するのが安上がりです。インターネットで申し込むこともできます。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止または開催方法を変更する可能性がありますので、あらかじめご承知ください。



2022年日音協沖縄行動 (5・15平和行進)の 参加のご案内

ロシア軍によるウクライナへの侵略戦争は、ミンスク合意、国連憲章および国際法に違反する蛮行であり、ウクライナ市民のいのちと暮らしが犠牲となっており、直ちに撤退、停戦、平和外交による解決を求めるものです。また核抑止力部隊を高い警戒態勢に置くことは、核戦争を誘発し、世界を破滅に引きつける愚挙以外のなにものでもありません。

今年、沖縄は復帰50年を迎えます。辺野古への新基地建設は、民意を示し続けても、建設は不可能な軟弱地盤の存在が明らかになっても、工事が止まりません。そして政府は「辺野古

が唯一」を繰り返して、普天間基地の危険性は放置したままにしています。その普天間基地では昨年1年間の離発着は過去最多の18017回を記録しました。周辺住民への騒音は激化しています。

復帰の内実を問い続けてきた平和行進はコロナ禍で2年中止を余儀なくされましたが、復帰50年目の沖縄を歩くことで復帰の内実、憲法を問いたいと思います。

見出しのことに、開催要項のとおり取り組みますので、多くの会員、仲間たちのご参加をお願いいたします。

2022年3月26日

日本音楽協賛会
会長 松本敏之

小島力さん

ありがとう

福島県支部 南條善徳



私が小島さんの元氣な姿を見たのは昨年の5月にあぶくま台の自宅に伺った時でした。

奥の部屋からゆっくりと歩いてこれ校正済みの赤ペンの入った分厚い印刷物が差し出されました。今回発行された「故郷は帰るところにあらざりき」のホッチキスで綴じられた原稿でした。「今度出す震災当時から原発賠償集団申し立て運動までの本ができたので家で読んでみて」。小島さんはにこやかな顔で手渡ししてくれました。私は「また顔見に来ます」と言って別れました。その後コロナ過で病院に顔を見に行くことすらかなわず、それが最後となってしまいました。

震災後、小島さんが武蔵野

に避難されてから東和町で行う県支部の会議の時は列車で最寄りの二本松の駅に迎えに行きました。その送り迎えの車内での会話は非常に楽しく、避難生活のことや創り上げる作品のことなど、途切れることはありませんでした。

時には駅で列車が出発しても降りて来ないのであわてて電話を入れると「すまない・乗り過ぎた」。急いで次の駅に車を飛ばしたものです。(その後は到着前に事前に電話を入れました。)

小島さんとの付き合いは私が20歳台前半、双葉郡内の労働運動・反原発運動で知り合いました。特に双葉郡原発反対同盟の「被曝者実態調査」や「トランス搬送阻止行動」「東電交渉」などの運動を通じて行動を共にするようになりました。

1978年には「日音協福島県支部」が結成され、スリーマイル原発事故をきっかけにし、詩集「我が涙茫々」にもある「構成詩」もしも今何もしなければ「これが双葉地区での最初の構成詩の作品となり、その後、県支部内で反原発運動にかかわる数多くの作品

が創られていきます。当時は総評を中心とした労働運動全盛期でもあり、多くの青年労働者が事務所に集まり職場実態とその陰に隠されているもの、自分自身はそこに何を感じているか?東京電力の巨大な資本の裏に見え隠れするものは?地域の住民に何を訴えるのか?など夜を徹して議論し、構成作品を創り上げました。

県支部としての発表作品の創作作業は、ほとんど葛尾の小島さん宅に事務局員が集まり徹夜で曲創りの作業していました。途中の夕食時には奥の台所からヤス子さんが玄關を上がったすぐの掘りごたつの上にいろんな種類が入った「キノコ鍋」を用意してくださり、箸をつついて皆でワイワイと食事した思い出があります。山菜やキノコ採りの話はいつも満面の笑顔でした。また、あるときは自宅庭の池から大きいイワナかヤマメが忘れましたがすくいあげてきて焼いてくださったことも鮮明に覚えています。創作づくりの休憩時には小島さんが各地の山の縦走をしたときに撮りためていたパソコンで編集したBGM付きのビデオ鑑賞もいつものことでした。

作品づくりでは小島さんから常に大事にするように言わ

れたことは、「自分の感性を研ぎ澄まし物事の目に見える表面の事象だけでなくその裏に隠れている様々な出来事を読み解くこと・いろいろな角度から物事をみつめ、声に出さないものこそ大切に・・・」ということが多かったと思います。

構成詩づくりの活動再開は2011年の原発事故でした。被害にあった当事者の声を音楽でひろめようとの強い思いをもって仲間が集まり日音協四国高松祭典で「構成詩望郷」を演奏。その後「返してください」「草茫々」「ひまわり」「たった一つの」などの詩に曲を乗せた構成詩が創られました。

すべての構成詩には小島さんの詩があり原発を許さない強い姿勢で創られました。私たちもこれからもこのことを見失うことなく、自らの感性を大切に引き継いでいきたいと思えます。私の父と同一世代の小島さん。特に震災以降は私たちの作品に対し、この詩のことが違つよと気づかせてくれたり、めったなことでは褒めてくれない小島さんがこの曲の展開は良かったよと言ってくれたり、濃密で深く長い付き合いをさせていただきました。本当にありがとうございました。

東京都支部定期総会

2月27日、豊島区雑司ヶ谷地域文化創造館において、都支部総会を開催した。

昨年はコロナの感染拡大が続き書面決議であったが、今回は対面での開催。議長に松崎さんを選出した。来賓として松本会長にご挨拶をいただき、参加者は会員12名と少なかったが、久しぶりに会えた仲間からは、社会や反戦平和にこだわりをもって日常を紡いでいる報告が聞けた。

地道なサークル活動の継続の中、技量や表現を深めていくこととする動きや、「コロナを言い訳にするな」という力強い発言もあった。コロナ禍において、家族や仕事への影響を考えると躊躇は大きい。

先が見えにくい日々ではあるがコンサートも音楽祭も前向きに取り組んでいくと確認しあえた総会であった。

(森理子)



介護労働の実態が少し分かった

千葉県の上井です。3月20日、なのはなユニオンの西内さんご夫妻からのお誘いで「介護労働者の待遇を改善しよう！」という小さな集まりに田中さんとともに参加してきました。参加者は15人ほどでしょうか。自分の親を高齢者施設に預けていて疑問に思っている人や、以前は派遣社員として事務の仕事をしていたが、派遣の期限が切れて賃金は安くなるのだが介護の仕事に就いた人などでした。

奥さんが介護の仕事をしている男性は奥さんも誘ったのですが、不満はあるが待遇改善や賃上げを言うのは後ろめたいと言っていたそうです。でも、決められた時間に食事を食べてもらいう事が大変で無理にでも食べさせないとい規則違反で自分が罰せられてしまうというにだっているそうです。母親を見てもらっている男性は、母親の入浴介護が流れ作業で母親がせっかくの入浴介護なのにほっとしているように見えないと言っていました。交流の前には介護労働者の賃金の安さが指摘され、それ故になおさら人が来ないので日勤の後について遅勤を月に10日やった事もあると。

会の途中で歌う時間が用意されて、「がんばろう」と「原爆を許すまじ」を、会議室でしたので抑え目にギターを弾きながら歌いました。毎日テレビを見ててゴロゴロの生活で筋肉が落ちたのか音程が少し不安定に。加えてCOPDのせいでしょう。



久々だったので緊張もあつてか、控え目に歌ったのに息が切れていました。

今後の予定

- 4/9 4・9 反核燃の日全国ワラワ集会（青森県内集会）
- 4/16 さよなら原発首都圏集会（東京・亀戸中央公園）
- 4/20 第6回幹事会
- 4/24 東北北ブロック・WEBコンサート
- 4/29 中央メーデー（地方メーデー）
（メーデー合唱団が、4/16に収録したものを使用します）
- 5/1 地方メーデー（各地からの報告をお願いします。）
- 5/3 5・3 憲法集会
- 5/13～15 日音協沖縄行動（5・15 平和行進）
- 5/14～15 北信越ブロック合宿
- 5/15 新潟県支部総会
- 6/3（19時）～5日（15時）
日音協セミナー2022
若い会員の交流会
- 7/30～31 全国代表者会議
- 9/3～4 第53回はたらくものの音楽祭（茨城）

ウクライナ軍事侵攻に抗議する 打電行動について

各支部長 様
個人会員 様

日ごろから日音協活動にご協力をいただき、ありがとうございます。

ロシアのプーチン大統領が2月24日、ウクライナへの軍事侵攻に踏み切りました。この蛮行に対して、日音協も参加するフォーラム平和・人権・環境（平和フォーラム）は2月25日付で抗議声明を発出し、在日ロシア大使館に送付し、さらに「ウクライナに平和を！原発に手をだすな！市民アクション」（3月21日代々木公園B地区）など多くの行動を呼びかけ、アピールしてきました。

戦争反対の声は、市民、労働者によってロシア国内をふくめ世界各地で上げられています。戦争によって犠牲になるのは常に無辜の民であり、世界の市民、労働者は戦争をすすめる指導者を許してはなりません。

つきましては、平和と民主主義を破壊し、侵略戦争を強行したロシアのプーチン大統領に抗議する打電行動を在日ロシア大使館に向け、各支部の取り組みを要請いたします（個々の会員に要請するものではありません）。

記

- 1 抗議先 在日ロシア連邦大使館
所在地：〒106-0041 東京都港区麻布台2丁目1-1
ファクス：03-3505-0593
E-mail：tokyo@mid.ru
- 2 抗議文例（日音協中央が送った抗議文）
●プーチン大統領はウクライナへの軍事侵攻を直ちにやめよ！
●核兵器の使用をほのめかして威嚇するな！核兵器を弄ぶな！
- 3 抗議方法
ファクシミリ送付としますが、ファクシミリ回線が閉鎖された場合は電報または郵送をお願いします。

2022年3月29日

日本音楽協議会

会長 松本 敏之



歌の力が物語るもの

104

菜葉坂つた行動 3/25 (437回) 報告 R i c o

【参加者】スーさん、ようこさん
坂口、達哉、森、スーさんのお友
達 計6名

あちこちで市民の行動があるためか、国会周りは警察車両が並び、南門からの道路には折り畳みグレートが配備されている。菜葉坂にはスーさんが先に居た。経産省前の抗議行動に参加していたという。菜葉坂つた行動が休止していた間も、スーさんはあちこちで歌っていたそう。先日代々木公園で緊急に行われたさようなら原発の「ウクライナに平和を！ 原発に手を出さな！ 市民アクション」にも参加し、ひとりで歌ってきたという。『怒りのこぶし』ロシア

への抗議バージョンを歌ってもらった。「歌え歌え！ 反戦の合唱」が格好良い。

原発は存在だけでも戦争に利用されることが明らかに。た。「原発に警備隊配備だってさ。」「ミサイルでも来りゃ役にたたん。」「北朝鮮のミサイル発射への、あの避難訓練みたいだよな。」「あれも馬鹿らしくったよな。」「的外ればかりの自称『対策』が無批判に繰り返される。今日は反戦中心の歌詞カードを作っていた。ようこさんも到着したので、早速配る。北海道の笠木さんの『風に吹かれて』を、歌詞付けに自信はなかったが、何度も歌った。坂口さんが久しぶりにやってきた。スーさん

のお友達を通りかかって、足を止め、カメラを向けながら歌を聞いてくれる。クッキー坊やのご家族が通りかかった。今日はお母さんと妹ちゃんのふたり。妹ちゃんがクッキーを配ってくれた。

『私たちは許さない』『戦争に力貸さない』『決意』『私は忘れない』。すべての戦争に反対。

ロシアの侵攻は許せないが、だからといって武器供与も容認できない。『いつの日も いかなる戦にも加担するまい』とは栗原貞子さんの詩、瓦井さんの曲『世界とともに』だ。善悪に色分したような情報の嵐が怖い。ロシアの情報統制は酷いが、この国でも巧妙に情報を操作しているではないか。日本政府はウクライナからの避難者を受け入れ

るとドヤ顔だが、国内では原発被災者を切り捨て、甲狀腺がんの子どもたちを放置し、沖縄の民意を足蹴にした上に米軍による市民の不利益に目をつむり続けている。他国の惨状を利用して、憲法改悪や武器輸出、核共有、原発推進を狙う。報道されていない事々にも目を凝らしていきたいと思う。

金曜日は菜葉坂で歌おう！



水道橋だより

▼瓦井さんの報告を読んで。▼70年安保の頃、私は中学生でした。同級生が、明治大学からの教育実習生に、『資本論』について喰いついていました。あまりにしつこかったんでしょ。『全部読んでから来い』と突きかえされていました。私はといえばタイトルから、資本論とは「金儲けのテキストみたいなもの」と思っていました。(佐藤)
▼今回の『たかが歌 されど歌』には、37歳当時の松本会長が登場。本人からは別な原稿もあるでしょうと言われそうですが、今後の活動の糧となるようにと編集しています。(佐藤)

2022年4月16日土
福島中央公園 福島原発事故から11年
4/16 さようなら原発 首都圏集会

福島原発事故から11年、世界に目を向けよう。福島原発事故は、日本が抱えている深刻な課題の一つです。この集会では、原発の危険性について話し合い、安全なエネルギーの必要性について議論します。

13:30 開会 主催者挨拶
14:00 講演 福島原発事故の経緯と現状
14:30 討論 原発の廃止とエネルギーの未来
15:00 閉会

参加費 無料
会場 福島中央公園
主催 福島原発事故から11年を振り返る会

※このイベントは、福島県民の安全と健康を守るために行われます。参加費は無料です。会場は福島中央公園です。雨天決行です。

どん行

(153)

飯島貞親

識見があるわけでもないのに、ドイツ並みに核共有を認めて貰わないとと拜米コンプレックス満載。もうい加減才モテに現れるのはやめてほしい。

▼「日本の政治家」とかけて、「不整脈」ととく。その「コ」は「シンソウ(晋三)」の動きが気になります。▼2月末に安倍元首相が唐突に持ち出した「核共有」問題がまだ尾を引いている。石破茂元民党幹事長が「米国の核の傘に穴が開いていないのか、常に点検し米」と議論してはならない」と正論を吐いているが、日本が米国の核の傘に頼ろうとするなら当然だろう。▼ところが、日本の総理が核の傘の信頼性について米大統領に質したことは、一度もなかったことが明らかになっている。ということとは、この「政府最高レベルの核の無知」は安倍においても同じで、にも関わらず彼が知ったかぶり「核共有」を言い出しているのは無責任極まりない。▼ドイツでは、あらゆる角度から核の傘の信頼性を疑って米国の怒りを買い、米国の核を自国領土に持ち込ませその配備・運用に一枚噛むほうが抑止力上がるのではと、専門的な議論まで吹きかけて米国の核を人質にとっている。▼結局、安倍は核のことをろくに考えたこともなく、米国の議論を挑む勇氣と